

インド、2会合連続の利上げ 政策金利を0.25%引き上げて6.50%に

情報提供資料 2018年8月2日

8月1日、インド準備銀行（RBI、中央銀行）は金融政策決定会合において政策金利を0.25%引き上げ、6.50%にすると発表しました。利上げは6月の金融政策決定会合に続き、2会合連続となります。

▶ 市場の予想通り、0.25%の利上げを実施

- RBIは、定例の金融政策決定会合を開催し、大方の市場予想通り、政策金利であるレポ金利を0.25%引き上げ、6.50%としました。約4年半ぶりの利上げとなった前回6月の会合に続いて、2会合連続での利上げとなりました。金融政策評議会の6人の委員のうち、利上げを支持した委員は5人で、今回は全員一致の決定ではありませんでした。また、金融政策スタンスは中立のまま据え置かれました。
- 同会合における声明文では、引き続き食品と燃料を除くコアCPI上昇率の高まりや、原油価格上昇の警戒感が示される一方、食品価格は落ち着いているとの認識が示されました。RBIは、2018/19年度の国内総生産（GDP）成長率見通しを、前回同様+7.4%（対前年比、以下同）のまま維持しました。インフレ見通しは、2018年7-9月期を+4.6%、年度下半期を+4.8%としました。前回の会合では今後のインフレ率の上昇を見越して予防的に利上げが行われましたが、今回の会合ではさらに念を入れる形で利上げが行われたものと考えられます。

▶ 金融市場で利上げは織り込み済み

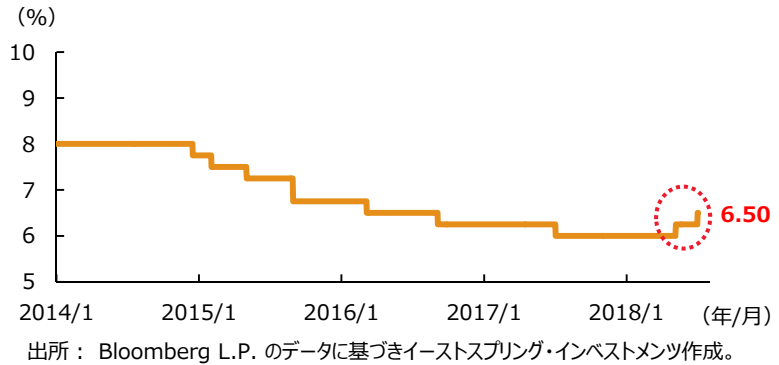
- 8月1日のインド株式市場では、代表的な株式指数であるSENSEX指数は前日比-0.23%と小幅に下落しました。また、債券市場では、10年国債利回りは前日より0.07%低下（価格は上昇）しました。
- 為替市場では、インドルピーは対米ドルで前日比0.2%上昇しました。金融市場では、今回の利上げはほぼ織り込み済みだったものと見られます。債券市場では政策スタンスが中立で維持されたことが好感されました。

▶ 今後の見通し

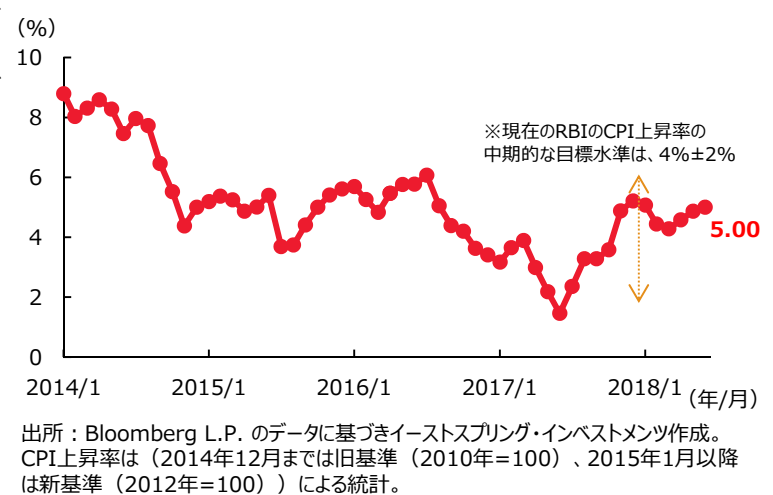
- 引き続き、原油価格、保護主義的な貿易政策、主要国の金融政策の動向には注意が必要と考えます。今後の金融政策については、国内のインフレの動向をにらみながら進められるものと考えられますが、政策スタンスは中立のまま維持されていることから、積極的な利上げの継続は見込まれていません。
- モンスーン期の雨量は現在まで順調であり、食品価格は落ち着いています。今後は、物品・サービス税（GST）の一部品目に対する税率変更や農作物の最低支持価格（MSP*）引き上げの経済への影響を注視していきます。

*最低支持価格（MSP=Minimum Support Price）は、政府が農村から農作物を買い上げる時の価格。農家の所得補償につながると同時に、食品価格にも影響。

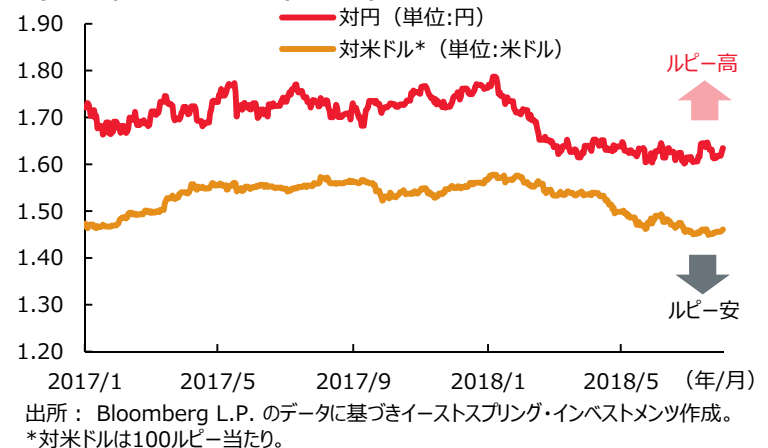
インドの政策金利の推移
(2014年1月末～2018年8月1日)



インドの消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）
(2014年1月～2018年7月)



インドルピーの推移
(2017年1月1日～2018年8月1日)



東洋ブルデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社とは関係ありません。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。